

ディーラーのような対応ができる、
そんな気配りのできる自動車屋にしたい。

(株)安原自動車・安原紹満さん



NORA 早稲田さん

ETAJIMA GoON! Vol.2

ACCES

(株)安原自動車
／ダイハツ広島南店



<本社・ショールーム>
広島県江田島市大柿町大原 527-8
TEL：0823-57-2103

<中古車展示場>
広島県江田島市大柿町大原 1030-1
TEL：0823-57-6888



(上)日頃の点検も丁寧に。
(下)明るい本社ショールーム。



本社近くのスペースでは
中古車販売も行っています。

人とのつながりを大切に、地元に根付いた仕事を

大柿町大原にある安原自動車は1979年創業、42年続く自動車屋だ。代表を務める2代目・安原紹満(やすはら・あきみち)さんに話を聞いた。「両親は家庭に仕事を持ち込まない人でした。だから正直、どんな仕事をしているのか、全く知らない状態だったんです」紹満さんは京都で就職後、22歳の時に地元に帰り、30歳で2代目として安原自動車を継ぐことになった。「最初は右も左もわからず。でも、仕事を通してもっと車に興味を持つようになって、好きになった。それから、僕は人と関わることが好きだったので、仕事を通してたくさんの人と繋がりを持てるようになったのは一番嬉しいことです」店内には子どもたちが遊べるキッズスペースを設けるなど、誰でも気軽に入れるお店づくりを心掛けている。「田舎だからといって、妥協しない。ディーラーのような対応ができる、そんな気配りのできる会社にできればと思って、なんとかここまでやってきました」実際に、ダイハツからディーラー認定を貰い、今では『ダイハツ広島南』という名前で店舗を運営する形となった。

「どうしても車が生活の一部になる地域なので、車の問題、トラブル、困ること…たくさんあると思うんです。その問題を一緒に解決して、生活の支えになれるように、これからも地域の皆さんに貢献できるような会社でありたいと思っています」

地元で活躍する友人に刺激をもらい、新たな活力を見出した

カーシェア事業を始め、市内にある自動車屋(18社)の組合の専務も務めている。「人口が減って、お客さんも減って。どう仕事を確保していくか、常に考えています。各社が困らないように、組合の体制をしっかり整えることもそうですし、商圈を広げる取り組みも考えていかなければならない。江田島での仕事が無くなるように、継続していけるように頑張っています」自動車屋のできる範囲は限られている。楽しい、面白いことを率先してできる業種ではない。それでも、周りで活躍する友人たちの姿が刺激になり、安原自動車は少しずつ変わってきた。「みんなが地元に戻ってきてくれて、それぞれの場所で活躍する姿を見るたびに、とても刺激になっているし、何より心強いと思える。僕も動かなきゃ駄目だ！って気持ちになるんです。集まって話をしている、自然と“地元を盛り上げたい”とか“過疎化を食い止めよう”なんて話にもなるんですよ」冗談半分、本気半分で新事業などの話もすることがあるという。紹満さんをはじめ、友人たちすべてに共通するのは『江田島市を盛り上げたい』という熱い思いなのだろう。「僕は引き継がせてもらった立場として、会社を存続させるというプライドもあります。その中で、安原自動車としてできることは何か、今までにない仕事をどう増やしていくか。夢を見るだけでなく、実現できるように、悩みながら、少しずつ道を切り拓いていけたらと思います。まずは、現状維持…いや、現状維持以上を目指します(笑)」

取材したこの日もお客さんが次々と店舗を訪れていた。信用一番！と笑顔で話してくれた、明るく、パワーに満ちる紹満さん。大切なこの場所を守りたい、江田島市を盛り上げたい。その思いや行動力は、きっと新たな道筋を作っていくだろう。



質問にも、一つひとつ丁寧に答えてくれた代表の紹満さん。



くるま、
しごと、
つながり。

「継ぐ」責任、プライド。
地元に根付いた自動車屋の
今とこれから。

Vol.2
大柿町・大原
株式会社
安原自動車